クラブ東海

発行者　名古屋市中区栄四丁目1番1号　中日ビル12階　クラブ東海事務局　電話(052)261－6861～3

議論より防災の実践を

福和名大大学院教授　三大都市圏に迫る巨大地震

1月午さん会

講演する福和教授

一月午さん会は二十八日（木）に開き、名古屋大学大学院環境学研究科副研究科長、福和伸夫教授から「迫り来る大地震。脆くなった現代社会は大丈夫か？」と題する講演をお聞きしました。今年一月で阪神大震災から15年。福和教授は巨大地震が三大都市圏に迫っているというのに、住まいの環境が悪化し、社会も人も防災の力が弱っていると指摘、意識を改め、議論より実践を――と訴えました。

福和氏は名古屋市生まれ。昭和五十六年、名古屋大学大学院工学研究科修了。同大工学部助教授などを経て平成十三年同大学院環境学研究科教授、二十一年から同副研究科長。専門は建築耐震工学、地震工学、地域防災。中央省庁、自治体の防災・耐震関係委員を務めています。以下は講演の概要です。

現代社会は危険なものをいっぱい造り、人はその中に住んでいます。日ごろそれを感じているかどうかで、明日が決まります。対策が不十分で、この世からさようならするのはとてもつまらないことです。私たちは次の世代に向けてどういうメッセージを残したらいいか、考える必要があります。

かつては平屋で板葺きの木造の建物を造っていましたが、今は重いコンクリートでできた高層建物を造っています。戸建て住宅は軽いので、ジャッキで持ち上げて救えます。しかし、壊れたビルの中では、人はすき間から引き出すか、床を壊して救うしかありません。私たちは戦後、軟らかい地盤に街を広げ、背の高い建物を造ってきました。地盤のよし悪し、建物の上層にいるのと地面の上とでは、揺れは何倍も違います。また、兵庫県南部地震では10秒位しか揺れませんでしたが、東海・東南海では1分以上揺れます。

建築の基本を放棄

筋交いが入っていると、建物は揺れにくく、かつ壊れにくくなります。建物の造り方で耐震性が全く違います。私たちは技術、技術と言って建物造りの基本を考えることを放棄し始めており、そういう家の中で命を落としてきました。かつて人の命を奪うような大きな家具は家の中にありませんでした。今は住んでいる場所は揺れやすい場所になり、重い建物を造り、家の中に危険な物を一杯詰めた生活をするようになっています。

兵庫県南部地震直後のビデオ映像を見ると、多くの建物が燃えています。家を密集して燃え移りやすくなっているのと、私たちが余り税金を払っていないため、消防力が足りないからです。ふだん働いている消防士は人口３０００人に一人しかいない。名古屋市は２３００人ほど、交代勤務なので常時は６００人ほどですから、同時に消火できるのは60カ所。１１９番通報を受け取るのは名古屋では10卓。10数人が同時に１１９番すると、受け取れません。これは全国的にも少ない。

新聞社、テレビ局の記者の数を調べると、４０００万人が同時に被災する東海・東南海地震のような災害になると、記者が足りません。能登の地震の被災者は３万人、中越は30万人、神戸は３００万人。これから僕たちが経験する地震では、取材できるのは大都市のごく一部だけ。メディアで放送されない地域は見捨てられます。

4000万人が被災し、国家予算相当の被害を出すというのは、ただごとではないですが、多くの日本国民はほとんど目をつぶっています。国をリードしている世代は、この地震で被災しなくてすみそうなので、今ひとつ力が入っていないのかもしれません。東海・東南海地震では今の税収の倍のカネを失います。壊れる建物は90万棟、日本で年間建てている建物の倍です。それに対し医師は27万人。うち外科医は3万人ですが、外科医はなり手がいないので、減っていきます。消防士は15万人、陸上自衛隊員は15万人です。

巨大地震への備えについて講演を聞く会員の皆さん

被害半減を国際公約

5年前、国は地震防災戦略をつくり、10年間で地震被害を半減すると世界に公約し、災害被害を軽減する国民運動推進を始めました。被災が大きくなるのは、建物が壊れることが原因なので、建物を直すことになりました。全部の建物を直すのに必要なのは、15～20兆円。私たちの国にとって大した額ではありません。既に1000兆円も借金しているのですから。10年で改修すると、国民一人当たり一日30～40円の負担です。やることをやらないで、世界に迷惑をかけると、他の国が助けてくれるかどうか。

東海地区はメディアの報道や県、市町村のがんばりで市民の地震保険加入率、小中学校の耐震化率は全国1です。8月11日、駿河湾で地震がありましたが、それほど被害が大きくありませんでした。家具の転倒防止をしている家庭は静岡では60数%です。

僕たちは知識を入れるばかりで行動しないようになりました。昔の人は知識がなくても生きる知恵を獲得しており、その知恵が体に染みついているので行動に移ります。自然の怖さを身をもって感じていました。人間関係が濃密だったので、ちゃんとやっていない人には周辺が世話を焼き、怒りながらもやらせていました。そういう時代に経験した地震と、頭ばかり賢くなって何も行動しない現代社会ではどちらが災害に強いか。

災害が歴史を変える

私たちの国では、大きく歴史が変わる時期と、災害がたくさんやってくる時とが重なっていました。1703年、元禄の関東地震、4年後に超巨大な宝永地震が来て、49日後に富士が噴火し、この時に元禄時代は終わりました。1854年12月23日、24日に安政地震が起き、1年後の1855年11月に安政の江戸地震があり、水戸藩の屋敷がつぶれ、尊王攘夷（じょうい）派は力を失いました。地盤のいい紀尾井町の井伊直弼の屋敷はつぶれず、開国派へと流れが移っていきます。そして、被災地から離れた薩摩や長州が明治をつくります。日露戦争と第一次世界大戦後、豊かな時代になった1923年、関東地震が起きました。東京とはずいぶん離れたところの地震でしたが、東京は具合の悪い都市改造をしたため、大変な被害を出し、国家予算の3倍、国民総生産の4割のカネを失いました。その後、立て続けに地震が起き、戦争が始まり、東南海と三河地震が戦争を終結へと導きました。46年、南海地震、48年、福井で地震が起きました。次に来るのは3大都市圏です。誰でも歴史を学べば分かることです。

今世紀前半に地震で200兆円失ったとしたら、この国はどうなるのか。世界にどういう影響を与えるかという視点が必要です。現代人は自分で考えることを放棄し、法律だけ守ればいいという国にしました。おカネを大事にし、面積が広く、設備がよく見栄えがする建物を建てきました。設計事務所やゼネコンが技術開発をしたおかげで、とても造ることが出来ない場所にりっぱな建物を造る技術が身に付きました。土地が足りない日本では、それをしないと経済成長を遂げることが出来なかったとも言えます。問題なのは、より安全にと誰も言わなかった

ことです。

人口集中で日本がこける

危険といわれると地域では地震保険加入率は高い。この国はいわゆるインテリより、一般国民の方がはるかに安全を守る意識が高いと言えます。勉強している人ほど、面倒くさいのでやらなくていい理由を並べ立てて、やらねばならぬことを回避する傾向があります。

人口集中の問題もあります。関東では50キロ圏に3100万人、関西は1700万人、東海は900万人が住み、3大都市圏に日本人の半分が住んでいます。人口集積地のどこか1カ所がこけたら日本がこけることになります。また、災害危険度の高い低平地を利用しすぎています。早く農地に戻さないと、食料需給率も回復できません。大きな建物を造りすぎたので、同時被災者が多くなっています。液状化で危険度の高いところに工場を造り、高度成長で豊かな社会をつくってきました。経済合理主義からは当然ですが、安全性は考えられてきませんでした。

災害の時、重要なのが地元建設業者の重機ですが、過去5年間で愛知県が防災協定を結んでいる建設業者のブルドーザーは448台が274台に減っています。しかも今はリースなので、自分の判断だけでは現場に出せません。

巨大地震がやってくる時代の真っ最中にいます。近々やって来ますが、切実感は世代により違います。皆さんの子どもたちの時代は絶対、経験することになります。これからは人口が減少、少子高齢化の時代を迎えます。濃尾、関東、東南海、神戸の地震の時の人口分布を見ると、当時は日本を復興させる人材がいましたが、これからの時代は働き手がいません。

弱体化する社会、人

住まいの環境が悪化し、核家族化が進み、社会の力が弱っています。さらに、僕たち自身の人間として生きようとする力が一番、弱っています。どの草が食べられるか分かっていないし、自然が怖いという意識も弱い。核家族化したので、住むのに危険な場所や過去の災害をお年寄りが伝承する機会がなくなりました。地域での助け合いはなくなり、日本が弱っている時に地震を迎えることになります。

議論ばっかりしていて実践が進んでいないのが現状。意識を変えて、皆がちゃんとするようにしていくしかありません。災害はほとんどを人がつくり出していきます。人の意識を変えれば、災害は減るはずです。マスメディアの方々には国民をしっかり怒っていただき、自分自身がやらなくてはこの国を守れないというメッセージを出していただきたいと思います。

変化求めて動く年に

日本占術協会 常任理事 藤瑛梨賀氏が庚寅年を占う

1月婦人会

お話する藤氏

一月婦人会は十四日（木）、新年恒例の今年の運勢について、日本占術協会常任理事、藤瑛梨賀氏からお話をお聞きしました。テーマは①2010年生まれ星によるあなたの運勢②開運美容法――の2項目。個人相談もしていただきました。藤先生は学習院大学文学部卒。九星開運暦（日本占術協会編）毎日の運勢（成美堂出版）を執筆。テレビ、ラジオにも出演。以下はお話の概要です。

昨年も不況を引きずり、格差社会もひどい状態のままです。今年は「庚寅（かのえとら）八白土星」。庚寅は変化しようと地中でうごめいている状態を言います。八白も変化、改革の意味があります。今年は表面的には鈍く見えても、内部でマグマが熱く変動しており、政治、経済も変化を求めて動こうとする年。価値観も変化が起こりやすいので、臨機応変に対処する心構えが必要です。八白土星は地殻に変化が起きやすいので、地震、火山の噴火、爆発が多いと思われます。気候にも変化があり、穀物の出来にも影響します。